正誤表

(2025年9月11日現在)

目次

正誤表.....	1
(2025年9月11日現在)	1
コロナ対策の政策評価.....	1
第2刷(2025年9月5日発行)での修正分.....	1
第2刷以降に判明した修正分.....	2
感染症対策の厚生経済学：都市封鎖の事後評価	2
感染症対策の厚生経済学：局所的集団免疫 付録 ネットワーク SIR モデルのパラメータ	2
「接触8割削減」の科学的根拠.....	2
「接触8割削減」の科学的根拠の再現.....	3
事業者の営業制限：事例研究 新型コロナウイルス感染症	3

新型コロナウイルス感染症に関する拙稿の誤記の訂正をまとめたものです。今後も誤記に気づいたら、この正誤表を更新します。

コロナ対策の政策評価

第2刷(2025年9月5日発行)での修正分

	(誤)	(正)
p.30、左から3行目	することができる	することが <u>できる</u>
p.60、図2-2、キャプション3行目	「 <u>求道者</u> 」	「 <u>探究者</u> 」

p.240に挿入

【付記】

本書第1章と先行研究では、西浦教授が公開したモデルのソースコードに基づいて、接触削減の分析結果を再現していた。しかし本書の出版を契機として、「西浦教授は接触削減の根拠となる分析にはこれとは異なるモデルを使用していた」ことがわかったので、増刷を

機に、ここに付記しておく。

この異なるモデルは、接触と新規感染の関係の標準的な考え方を大きく逸脱し、SIR モデルとの整合性を持たなくなっており、本書と先行研究での批判の主旨は維持される。くわしくは、筆者のブログ記事「『接触 8 割削減』のモデルに関する新事実」(<https://iwmtys.blog.jp/archives/1085284435.html>) を参照されたい。

第 2 刷以降に判明した修正分

	(誤)	(正)
p.54、 2 行 目	予算委員会	<u>参議院</u> 予算委員会
p.240 、左 から 2 行 目	「『接触 8 割削減』のモデルに関する新 事 実 」 (https://iwmtys.blog.jp/archives/1085284435.html)	「『接触 8 割削減』のモデルに関する新 事 実 (改 訂 版) 」 (https://iwmtys.blog.jp/archives/1085378866.html)

感染症対策の厚生経済学：都市封鎖の事後評価

	(誤)	(正)
p.4、3 行目	<u>1</u> 年分	<u>10</u> 年分

感染症対策の厚生経済学：局所的集団免疫 付録 ネットワーク SIR モデルの

パラメータ

	(誤)	(正)
p.5、14 行目	<u>編</u> 微分方程式	<u>常</u> 微分方程式

「接触 8 割削減」の科学的根拠

	(誤)	(正)
p.5、1 行目	この図にはいくつかの問題点がある。 <u>8 割削減で約 15 日間とされる区間の右端は 16~17 日の間にあ</u>	この図にはいくつかの問題点がある。100 人を示す線は水平ではない。

	るので、15日という表記は正確ではない。また、100人を示す線は水平ではない。	
--	---	--

「接触8割削減」の科学的根拠の再現

	(誤)	(正)
p.9、図3注	https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000624048.pdf	https://www.kantei.go.jp/jp/singi/novel_coronavirus/senmonkakaigi/sidai_r020422.pdf
p.26、10行目	<u>5</u> 段	<u>6</u> 段
p.26、14行目	<u>6</u> 段	<u>7</u> 段

事業者の営業制限：事例研究 新型コロナウイルス感染症

	(誤)	(正)
p.14、表3	<u>区分2</u>	<u>区分3</u>
p.14、表3	<u>区分3</u>	<u>区分2</u>
p.14、表4	<u>区分2</u>	<u>区分3</u>
p.14、表4	<u>区分3</u>	<u>区分2</u>
p.18、17行目	<u>29</u> 条	<u>24</u> 条
p.18、最終行	<u>29</u> 条	<u>24</u> 条
p.21、下から2行目	事業者が <u>追う</u>	事業者が <u>負う</u>